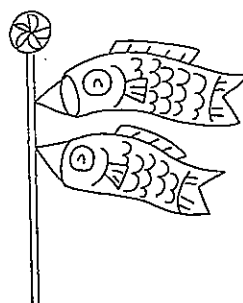


図書館だより 5月号 奈良大学附属高等学校 図書部 発行



新学期がスタートし、1 カ月が経ちました。新年度を迎え、新しいことにチャレンジしようと思いが湧く季節ですね。新入生のみなさんは、高校生活にもすっかり慣れてきた頃でしょうか。新2、3年生のみなさんも、新しいクラスにも馴染み、学年が上がって勉強内容もレベルアップし、より充実した高校生活を送っている頃だと思います。

GW も終わり、中間テストが間近に迫ってきました。1 年生にとっては高校初めての中間テストですね。授業ノートをしっかりと見直して、本番に備えてください。昼休みや放課後には、図書館で自習をする生徒の数も増えてきています。図書館2階にも大きな机が11 個あり、44 人が座ることができます。どんどん活用してください。

希望図書 リクエスト募集中 !!

読みたい本が図書館にない場合は、リクエストをすることができます。カウンター横にあるリクエストカードに必要事項(学年、クラス、氏名、書名、著者名)を記入し、カウンター係に提出するか、リクエストボックスに入れてくださいね。

高校生活をより実りあるものにするために、図書館を十分に活用しましょう。今後も、新しい本が続々と入ってきます。みなさんの前には、まだ見ぬ世界が果てなく大きく広がっています。素晴らしい本との出会いは、みなさんをより大きく成長させてくれます。これからの3年間、素晴らしい本とたくさん出会ってくださることを願っています。



今月のオススメ

今月は、今現在上映中の話題の映画の原作本を2 作品紹介しますね。

「学年ビリのギャルが1 年で偏差値を40 上げて慶應大学に現役合格した話」
著者 坪田信貴 角川文庫

これまでに1000 人以上の子供たちを個別指導し、心理学を駆使した指導法により、生徒の偏差値を短期間で急激に上げることに定評がある著者。そんな一人の教師と一人の金髪ギャルとの出会いが、彼女と彼女の家族の運命を変えることになりました。家族の愛と仲間の友情、明日から頑張る勇気とヒントをくれる、汗と涙と笑いのいっぱいあった、とびっきりの青春ストーリー、「ゼッタイ無理!」に挑んだ一人の少女の奇跡の実話です。

主人公のさやかちゃんは、本当に何も知らない。でも、その知らないことを恥ずかしいとも思わず、素直に坪田先生の指導(心理学を用いた手法もなかなか面白い!)に従っていきます。そしてまた、それを無条件の愛で支える母親(あーちゃん)。さやかちゃんを見ていると、人って、自分のことを信じてくれる人が一人いれば変わっていけるんだなってことがわかりますね。彼女には、そんな存在が二人(坪田先生と母親)もいたからこそ、この快挙を成し遂げることができたんだと思います。そして何よりも、さやかちゃんの並々ならぬ努力があったからこそ。

『僕たち一人ひとりの人間にとっては、誰もが無理だと思うようなこと、あきらめかけるようなことでも、「気持ち」と「方法」次第で、人はそれを変えられる大きな力を持っているのだと、さやかちゃんとそのご家



族はきっと教えてくれたのだと思います』 この著者の言葉が、とても印象強く残っています。何においても、あきらめないこと、信じること、信じ続けることって大切なんだなと強く気付かされます。これから勉強を深め、未来を切り開いていくみなさんにとっても、心の支えになる本だと思いますよ。

「ソロモンの偽証」 著者 宮部みゆき 新潮社



これらは、先月号で図書館司書の北浦さんも紹介していました、3 部からなる、衝撃と感動のヒューマン・ミステリー超大作です。

舞台はバブル末期の東京下町の中学校。中学2 年生の優等生藤野涼子のクラスメイトの男の子がクリスマスイブの夜に、校舎の屋上から飛び降りて死にました。警察も遺族もこれは自殺だと断定したけれど、ある日、「彼は、不良グループ3 人組に殺害された。ボクは目撃したんだ」という告発文が学校、警察の父を持つ藤野涼子、そして、担任に出されたはずが、なぜか破られてテレビ局に届きます。そしてまた新たな死者が・・・。

真相を隠そうとする学校に嫌気がさし、クラスメイトたちが自分たちで真相をつかもうと校内裁判を起こすことに・・・そして、次々と明らかになる衝撃の真実・・・そして最後に陪審員たちが下した判決とは・・・。

「偽証」というタイトルが、なんと物悲しく伝わってくるストーリー展開。中学生たちの抱える心の闇、弱さやもろさ、そしてみずみずしい感性が痛いくらいに、そして怖いくらいに伝わってきます。藤野を中心とする彼ら中学生は、ほんとうにたくましく強い。自らの足で自らの言葉で大人と向き合い、真実を暴いていきます。

校内裁判を通して、生徒たちは強い自信を持つようになり、大きく成長していきます。みんなそれぞれいろんな思いや背景を持ってはいるけれど、そういったものを乗り越えようとする力、他者を思う力なども強まっています。裁判を通して、ひと夏を超えておとなに近づいていく成長物語。

同世代のみなさんにもぜひ読んでもらいたい作品です。

4月は「図書館オリエンテーション」として、国語の授業の中で図書館の利用についての説明があったので、1 年生の来館者の数が多いですね。2、3 年生のみなさんもおおいに活用してくださいね。

4月の図書館利用状況			
1年生	2年生	3年生	合計
389人	91人	48人	528人

